

水の 話

FujiClean NEWS

2023
New Year

no. 198

[特集]

守り、受け継がれていく、
うきはの恵水。
めぐみ

水道普及率10%のうきは市の自然と暮らし

守り、受け継がれていく、 うきはの恵水。

水道普及率10%のうきは市の自然と暮らし

うきは市は、地下水だけで生活用水をまかなっている希少なまちです。

水道普及率は約10%、全国の市で唯一上水道がなく、

市民の生活や事業に必要な水の100%を地下水でまかなえるほどに水資源に恵まれています。

清廉な水、肥えた土壌、豊富な農作物など、

自然の恩恵を享受し、感謝しながら生きるうきはの人々の暮らしを訪ねます。



良質な地下水が、暮らしと産業を支える「水のまち」。

蛇口から天然水が流れるまち

私たちの日々の暮らしに欠かせない水。福岡県の南東部にある「うきは市」では、生活やさまざまな事業活動に必要な水のほとんどを地下水だけでまかなっています。うきは市は、南に耳納連山、北に「筑紫二郎」と称される筑後川が流れる、豊かな自然と清らかな水で知られるまち。耳納山地と阿蘇山を水源とする筑後川水系からにじみ出る豊富で良質な地下水が、古くより「うきはの恵水」として多くの恩恵を与え、地域を支えてきました。驚くべきは、こうした豊富な水資源によりうきは市の水道普及率は、わずか10%ほど。全国の水道普及率が98%とされているなかで、日本の792市で唯一上水道のない、たいへん珍しい「水のまち」なのです。

上水道の設備がないうきは市では、市内の9割を超える家庭で、塩素処理をされていない良質な井戸水をポンプで汲み上げて生活に使用しています。そのため、地下水を枯渇させないこと、水質を保全していくことは、暮らしを支えるための重要な課題です。そこで、地下水についての現状を知り、より良い地下水の保全と活用のための対策を検討するために、うきは市は2016(平成28)～2018(平成30)年度の3年間にわたって地下水に関するさまざまな調査を実施。科学的な分析や地形の調査を行ったことにより、この地域独自の環境特性が明らかになっています。

豊富な地下水をつくる2つの帯水層

うきはの豊富な地下水は、どのように生まれているのでしょうか。うきはの町並みを眺めてみると、北端の筑後川が

ら筑後平野、耳納連山の山麓部、八女市や日田市に続く山間部と、南に向かって徐々に標高が高くなっていきます。そのため山間部に降った雨は、森林や棚田に保たれながら、地下深くしみ込み、平野部に向けて長い年月をかけて流れていきます。うきはの地下には、約80万年前から筑後川によって運ばれた土砂が溜まっており、この隙間を地下水は流れています。さらにうきはは、阿蘇山の噴火による火山灰によってたいへん水はけの良い地層が形成されてきました。水を含んだ土砂の層を「帯水層」と呼びますが、うきはの帯水層は約9万年前の阿蘇山爆発による火砕流堆積物でできた水を通しにくい「Aso-4」と呼ばれる層を境に上下に分かれており、生活に使う水は浅い帯水層から汲み上げられ、深い帯水層は主に事業用として汲み上げられています。



DATA

2022年10月末現在

うきは市(人口28,260人 面積117.46平方キロメートル)

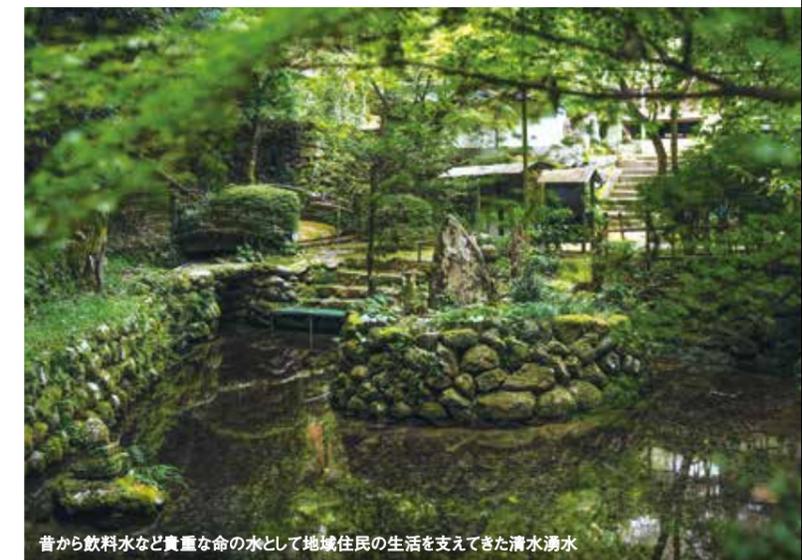
うきは市は、2005(平成17)年3月に旧浮羽町と旧吉井町が合併し誕生しました。福岡県の南東部、大分県との県境に位置しており、耳納連山や筑後川などの自然環境に恵まれています。また平坦部は肥沃な農業地帯や果樹地帯、山間部は棚田や森林などが広がります。美しい水に恵まれた環境の中、多様な産業が育っています。



[取材協力・写真提供・資料提供]

○ うきは市役所 水環境課水資源対策係

○ 合資会社 鳥志商店



昔から飲料水など貴重な命の水として地域住民の生活を支えてきた清水湧水

潤沢な地下水量を維持する水田涵養

田んぼの多いうきはは、水の浸透しやすい性質の土地に水田が拓かれたことで、大量の水が地下に供給され続けています。特に田植えの時期になると、田んぼには河川から大量の水が引かれるため、地下に絶えず水を送る働きをしています。夏期には降水や水田などを通して涵養量が格段に多くなるため、地下水位が冬期に比べて1~2メートルも上昇。調査の結果、うきはの1年間の地下水涵養量は約2,685万立方メートルで、平地部の地下に溜まっている水の総量は約7.4億立方メートルと推計されました。地下水が地下に溜まっている時間は地域ごとに異なりますが、平地部で20~35年、山地部では約50年、最長で約63年という結果が出ています。

豊富な地下水によって、市内には多くの湧水スポットがあります。山北地区の臨濟宗清水寺の境内にある「清水湧水」は、鎌倉時代より湧き出ていると言われる名水で、1985（昭和60）年に日本名水百選に選定されました。また町名そのものが「いい（吉）井戸水（井）」に由来している吉井町地区には、古い井戸の跡がいくつも残されています。うきはの地下水は、大地にしみ込んだ雨が地層を流れながら有害物が取り除かれ、地中から多くの天然ミネラルを吸収。そのため、2015（平成27）年に行われた地下水調査では、ほとんどの地点で美味しい水の条件を満たしていることがわかっており、近年は、うきはの湧水や地下水を使ったミネラルウォーターも販売されています。



五人の庄屋によってつくられた人工の川（南新川）は、今も吉井地区を潤しています



秋になると市内を黄金色の稲穂がたなびきます



うきはの天然水でつくられたミネラルウォーター



外壁などを漆喰で塗り固めて防火対策がなされた白壁土蔵の町並み



五人の庄屋の発願により、筑後川の水を引き込むために開削された大石堰



かんがい用のトンネル「袋野隧道」は、3年に1度見学会が実施されています



五人の庄屋を祀った長野水神社にある手水石には、五庄屋の家紋が彫られています

水とともに発展をとげた、うきはの歴史と自然環境。

うきはの農業を発展させた五庄屋の功績

うきはが現在のような水のまちになるには、地理的に恵まれた自然環境に加え、先人たちの多大な努力と偉業が大きく影響しています。元々この地域は、暴れ川で知られる筑後川が数年ごとに氾濫を起こしていたことで、栄養たっぷりの土砂が運ばれ肥沃な土壌が形成されました。しかし江戸時代初期までのうきはは、筑後川よりも高い場所にあったことから水を引くことができず、農業用水が不足。人々の暮らしは貧しく、多くの農家が飢えに苦しむ状況を救おうと立ち上がったのが、五人の庄屋でした。

五人の庄屋は、筑後川の水を引き入れる用水路と大石堰の建設を決心。あまりの大事業であることから周囲の反対運動にあいますが、「もしも工事に失敗した場合は処刑されても異存はない」という過酷な条件で許可を得ると、1664（寛文4）年1月11日に工事をスタートし約2カ月で完成させました。この功績によって、うきはの農業は大きく発展しました。さらに1672（寛文12）年には、吉井町の大庄屋である田代重栄・重仍親子が私財を投じて全長約2キロメートルにもおよぶ水路トンネル「袋野隧道」をつくり、急流で名高い瀬の瀬に石堰を築いて筑後川の水を引き入れました。完成した時のかんがい面積は70ヘクタールでしたが、今では400ヘクタールにまで及んでいます。先人たちの知恵と恩恵によってうきはの農業の礎は築かれ、現在も広大な田畑が潤されているのです。

豊かな水の恵みで栄えるうきはの産業

先人たちの功績によって、十分な水を得た広大な土地は水田へと変わりました。谷筋が多い地形を活かして作られた棚田では、沢水を利用した米作りが行われるようになっていきました。現在も新川・葛籠地区の山あいには、面積7ヘクタール、約300枚の精巧に石で積まれた階段状の棚田があり、丁寧に積み重ねられた石組みの多くは約400年前のもので、随所に山間地で暮らす知恵が垣間見られるだけでなく、自然と調和した美しい農村景観は、農林水産省の「日本の棚田百選」にも選ばれ観光スポットとしても人気です。

さらに水田の転作用に麦が作られるようになると、水路沿いには多数の水車小屋が作られ、その動力を利用して製粉・製麺業が盛んになりました。また水車の力で櫛の実からろうそく、菜種から油、米を精米して酒に、といった農産加工品が作られるようになり、吉井の商人たちはそれらを販売することで裕福になっていきました。物流が発展すると、うきはの米は大阪まで運ばれるようになり、砂糖や蠶などの農作物を運ぶ舟運も盛んになりました。宿場町としても栄えた吉井地区は「吉井銀」と称された金融も発展するなど経済の中心として成長。1869（明治2）年の大火を機に、それまでの草葺きの町屋に代わって瓦葺塗屋造が普及し、商家や地主は競って火災に耐えられ富を誇示する豪華な建物を建てるようになりました。火災に耐えられる白壁土蔵造りの町並みは現在も残り、当時の栄華を残しています。

地下水の恩恵を未来につなぐ、水にやさしいまちづくり。

フルーツ王国を支える「うきはテロワール」

うきはでは、昔から多様な地形を活かした地産地消が行われ、現在も福岡県を代表する農業地帯となっています。特に果物については農業産出額に占める割合が全国平均(約9%)を大きく上回る34%を誇るほどの、まさに「フルーツ王国」。1年を通じて、イチゴやブドウ、梨、柿などの果物をはじめ、米、野菜、オリーブなどの多様な農産物が収穫されています。さらに近年は、農産物の育成に適したうきはは独自の特性が明らかになったことで、農業を取り巻く環境を「うきは

はテロワール」と名付け、広く発信することによって新たな価値創造に取り組んでいます。「テロワール」とは、フランスで生まれた生育地の地理、地勢、気候の特徴を指す言葉ですが、うきは市はフランスのワイン産地ボルドーやアルザスとよく似た日本でも非常に珍しい地質・地形を有していることから名付けられました。太古から受け継がれている地形・気温・土壌・風・水・雨・地理という7つの恵まれた自然要素と先人の偉業、そして現在も農地整備や改良に研鑽を続ける農家の努力が合わさり、上質な特産物が作られています。

地下水の枯渇を防ぐ地下水収支の算定

古くから受け継がれてきた風土や先人の努力のおかげにより、うきは市は地下水だけで生活用水がまかなえる全国でも非常に珍しいまちとなりました。多くの家庭では、現在でも問題なく地下水が利用できていますが、将来にわたって同じように地下水が使えると言い切ることはできません。市が行った調査では、約7.4億立方メートルという大変豊富な水量がうきはの平地部に溜まっていることがわかりましたが、大量に使いすぎると減ってしまうため、適切な利用が求められています。調査によって算定された地下水収支によると、流入量が2,685万立方メートルに対して、流出量は2,697万立方メートルとほとんど差がなく、流出量のうち約4分の1が市民の暮らしと地域経済のために利用されています。天然資源である地下水は、水の収支のバランスが崩れると枯渇する恐れがあるため、過剰な地下水揚水による井戸枯れを防ぐための適正揚水量も算定されました。地下水の採取に関しては、いち早く2015(平成27)年に「うきは市地下水保全に関する条例」を定めており、事業用や営業用として1日あたり10立方メートル以上の地下水を利用する場合は、届け出が必要となっているなど、保全に取り組んでいます。他にも、定期的に地下水水位の観測や水質検査を実施し、その結果をホームページで公開。地下水活用、地下水保全、上水道推進など、多角的な視野で水環境を守っています。

うきはの恵水を守り続けるために

今は潤沢な地下水ですが、異常気象などによる自然環境の変化や、万が一地表から地下水へ汚染物質が混入してしまった場合の影響など、将来的な不安も少なくありません。例えば、以前まで10メートルほど掘れば水が出ていた場所が、15~20メートルまで掘らなければいけなくなったという声が、わずかながら出ていることもわかりました。そのため市では、安全・安心な水を将来にわたって確保し、地域産業を支える社会基盤の充実を図るために、地域の声に耳を傾けながら上水道事業整備の重要性にも目を向けています。

さらにうきは市には、名水百選「清水湧水」、水源の森百選「滝のある水源の森」、棚田百選「つづら棚田」、疎水百選「大石用水」という4つの全国百選をはじめ、茅葺屋根の古民家が残る新川・田籠地域など、昔ながらの農村景観を今に伝えています。こうした美しい風景や多様な文化・歴史を次の世代へと引き継ぐためにも、一体的な自然環境の保全が必要です。近年も市民参加の河川清掃や水源地区である森林の保全、河川護岸工事や数十年ぶりとなる大石長野水道の大改修など、さまざまな取り組みを実施。さらに地下水や水環境、歴史遺産についての情報を積極的に発信することで、市民の関心を高めています。清らかな地下水で生活する唯一のまちとしての誇りと水への恩恵を伝承し、水とともに次の未来を描いていきます。

うきはテロワール 7大 自然要素

01 ▶地形◀
耳納連山と扇状地
耳納連山の麓に広がる緩やかな地形は複合扇状地と呼ばれ、日当たりが良く、水はけと保水性を両立しています。

02 ▶気温◀
絶妙な温度バランス
四季を通じて気温の日較差もあり、冷えすぎない絶妙な温度バランスでフルーツの生産にとって最適な気候帯です。

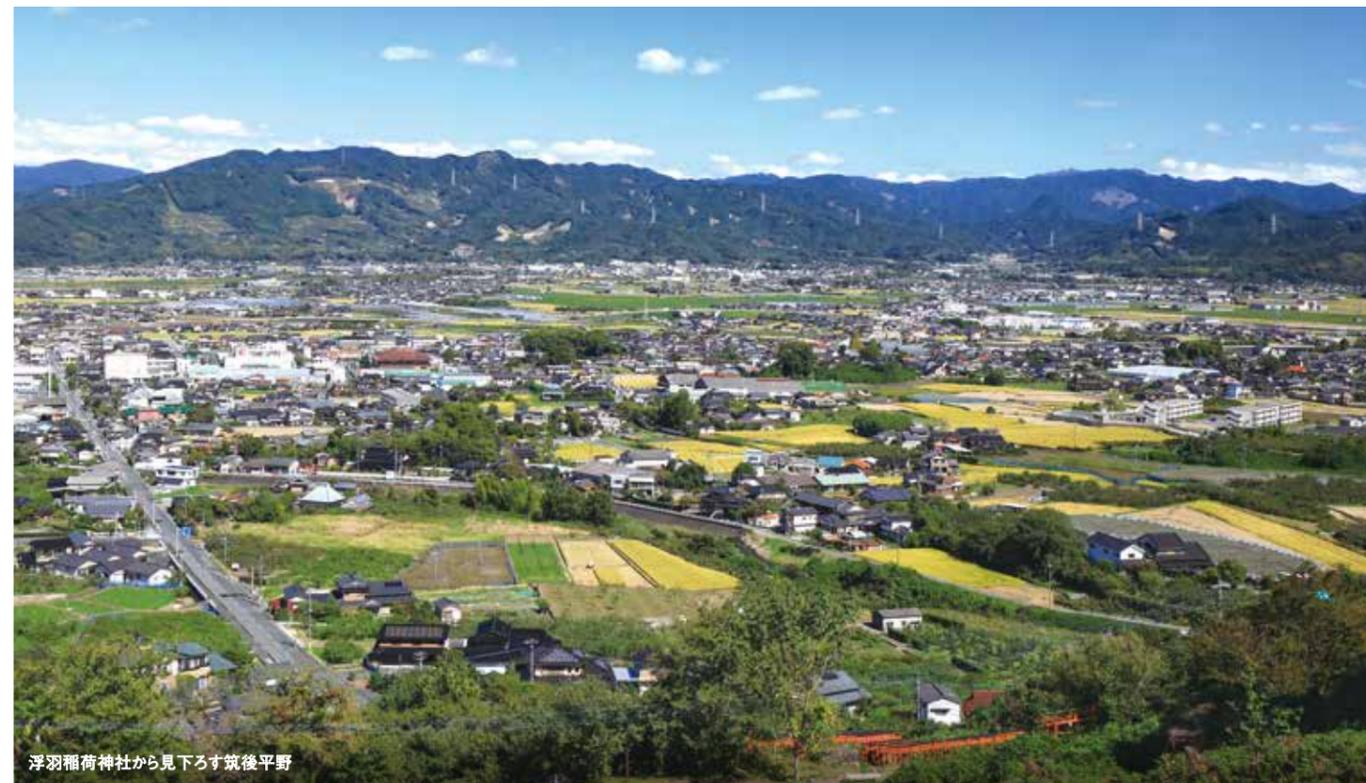
03 ▶土壌◀
作物が健全に育つ土地
扇状地は排水にすぐれ、深部の根まで呼吸が容易なため、果樹の生育に適しています。

04 ▶風◀
日本有数の微風地帯
最大風速が小さく風の影響が少ない日本有数の微風地帯で、周辺に比べ自然災害が少ない地域です。

05 ▶水◀
豊富なうきはの恵水
阿蘇の火山灰を含んだ帯水層により不純物がろ過され、岩石がもつミネラルが溶け込んだおいしい水です。

06 ▶雨◀
適度な夕立による水分補給
適度な夕立があり、果樹の水分補給と暑さの調整が可能です。過水期の干ばつ防止にもつながります。

07 ▶地理◀
筑紫の玄関
筑後川が筑後平野に流れ込む玄関口であり、阿蘇山の噴火や氾濫原によって形成されています。



浮羽稲荷神社から見下ろす筑後平野



滝の水音が音を奏でるかのように聴こえたことに由来する調音の滝



秋になると、柿の紅葉で耳納連山が赤く染まります(撮影協力/船越農園)



良質の水と気候を活かした、九州屈指の「うきは麺」

健康志向で開発された
人気商品



原料を均一に混ぜ合わせるミキシング



均一の太さに切り出し麺の形状に



鳥志商店オリジナル「鳥志掛け」

約350年前、吉井町周辺の五人の庄屋が中心となって、筑後川の上流から農業用水を引いてくる一大プロジェクトを実施し、荒れ果てた土地は豊かな農産地に生まれ変わりました。この水路の水の力を利用するため水車小屋が建てられ、精米や小麦の製粉などができるようになると、小麦粉で素麺づくりが行われるようになりました。清廉な地下水だけでなく、寒暖の差が大きいうきはの気候は麺の乾燥に適しており、明治30年頃には素麺業者の数が旧吉井町全戸の10%を超えるまでに急増。時代とともに機械製麺が主流となっていき、素麺以外のうどんやラーメンなどの製造が始まり、九州でも屈指の麺どころにまで成長しました。

現在、うきは市の製麺業者は4社に減ってしまいましたが、各社が得意分野に応じた麺を製造しています。1918(大正7)年創業の鳥志商店は、現在も各工程を自社工場で行う「一貫生

産」で、麺職人が天候を見ながら温度と湿度を調整しています。創業当時の素麺づくりのノウハウを活かし、今ではラーメンなどを手がけるように。中でも、「鳥志掛け」という名前で意匠登録もされている独特の形の乾麺は、60時間という長い時間をかけて熟成乾燥させることで小麦本来の香りとコシのある麺に仕上がっています。最近では、保存料無添加の植物性原料のみで作ったたいゆめんを開発するなど、時代に合った麺を次々と生み出しています。

合資会社 鳥志商店

〒839-1321 うきは市吉井町220-3

TEL.0120-522-140

HP <https://torishi.co.jp/>



フジクリーンインフォメーション

NEWS

UNIDOのサステナブルプラットフォーム「STePP」でフジクリーンの技術を紹介するプロモーションビデオが公開!



「STePP」は、国際連合工業開発機関 (UNIDO) の東京事務所が提供する、開発途上国・新興国の持続的な産業開発のために日本の優れた技術を紹介するプラットフォームです。現在世界では、多くの国において、排水が適切な処理をされないまま環境に流され、水質汚濁の原因となっているとともに、深刻な水不足への懸念も高まっています。今回は、そうした課題を解決する手法としてフジクリーンの排水処理技術をプロモーションビデオで紹介。フジクリーンの排水処理システムの活用によって、排水から効率的に有機物や窒素を除去し、安全な水に変えて環境に排出できることが、わかりやすくまとめられています。

フジクリーン
紹介ページ



ビデオライブラリー
Japanese
(フジクリーン紹介ビデオ)



フジクリーン紹介ページ

NEWS

事業継続力強化計画の認定を取得しました。

フジクリーンは、2022(令和4)年8月に経済産業省が行っている事業継続力強化計画の認定を取得しました。事業継続力強化計画とは、中小企業が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が「事業継続力強化計画」として認定する制度です。フジクリーンでは、近年の気候変動に伴う豪雨災害の増加や、南海トラフ地震発生の危険性など、自然災害リスクの高まりに対して具体的な防災・減災計画を策定しています。



事業継続力強化計画 認定ロゴマーク
認定番号:2022中部経強単認第206号
認定取得日:令和4年8月26日

防災・減災計画

災害等の不測の事態における早期の事業活動復活により、以下の3点を目的に、事業継続力強化に取り組みます。

- 1.災害発生時において、人命を最優先として、社員およびその家族の安全と生活を守る。
- 2.災害発生後も速やかに事業を復旧し、事業活動を維持することで、社員の雇用を守る。
- 3.大規模災害発生時にも速やかに事業を復旧し、応急仮設住宅向けの浄化槽を供給するなど、社会的責任を果たす。

NEWS 愛知県が取り組んでいる「あいちワーク・ライフ・バランス推進運動」に賛同しました。

「あいちワーク・ライフ・バランス推進運動」とは、あいちワーク・ライフ・バランス推進協議会が主催する、ワーク・ライフ・バランス実現のための取り組みを呼び掛ける活動です。新しい生活様式に対応した働き方が求められる昨今において、ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な8つの取り組みを推進し、新しい働き方につなげるとともに生産性の向上といった効果も期待します。フジクリーンではこの活動に賛同し、8項目に関する取り組みを促進することによって、従業員の健康と働きやすい環境づくりを行っていきます。



ワーク・ライフ・バランスの実現に資する8つの取り組み …具体的なフジクリーンの取り組み

- A. 多様な働き方の推進に取り組みます。**
 - テレワーク・時差勤務の実施
 - 育児、介護に加え、60才以降の短時間勤務制の導入
- B. 年次有給休暇の取得促進に取り組みます。**
 - リフレッシュ休暇制度の活用
 - 管理職による取得の呼びかけ
 - 時間単位付与制度の活用
- C. 時間外労働の削減に取り組みます。**
 - 残業の多い社員との面談やサポート
 - 多能工化による業務平準化
- D. 定時退社に取り組みます。**
 - 週に1回ノー残業デーの実施
- E. 「新しい生活様式」を踏まえた職場環境整備に取り組みます。**
 - Web会議の導入
 - 手指消毒液の設置
- F. 育児、介護、病気や不妊治療との両立支援や離職した人の復帰支援に取り組みます。**
 - 「育児・介護休業法」に基づく社内制度の整備
 - 育児休暇期間を2才になった年の年度末まで延長
 - 小学3年生まで時短勤務が可能
- G. メンタルヘルス対策に取り組みます。**
 - 全社員に対するストレスチェックの実施
- H. 管理職や従業員の意識改革に取り組みます。**
 - ワーク・ライフ・バランスに関する自社姿勢や支援制度の社内周知

Webサービス フジクリーンのWebサイトでは、小型浄化槽の新旧一覽やブロワの変遷をご覧いただけます！

フジクリーンの小型浄化槽やブロワの製品を一覽にして公開しています。生産を終了した製品の情報や後継機種などの情報をご確認いただけます。

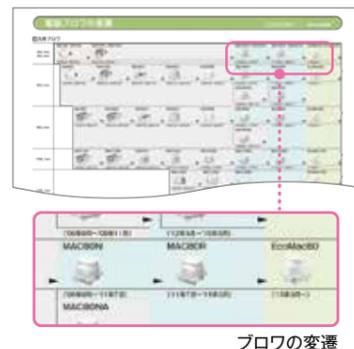
小型浄化槽新旧一覽

フジクリーン小型浄化槽の機種、発売および終了時期に加え、マンホール蓋のサイズや枚数、汚泥の引き抜き量を一覽にしています。



ブロワの変遷

廃番ブロワの型式や生産期間を掲載していますので、簡単に後継機種をお探しいただくことができます。



ブロワの変遷

お知らせ 型式認定更新のお知らせ

2022(令和4)年10月1日、CRX30~150型、CRX-G型およびPCN型の型式認定番号が定期更新(5年)により変更になりました。今後の弊社工場での生産はすべて新番号となりますので、確認申請の際は、更新後の型式認定番号にて申請をお願いいたします。更新後の申請関連書類は、CRX30~50型はフジクリーンのWebサイトから取得いただけます。CRX60~150型、CRX-G型、PCN型は、フジクリーンの最寄り事業所へお問い合わせください。

■ CRX30~150型

名称	型式認定番号	
	更新前	更新後
CRX-30型	5-17-H-002	5-22K-H-010
CRX-35型	5-17-H-002-1	5-22K-H-010-1
CRX-40型	5-17-H-002-2	5-22K-H-010-2
CRX-45型	5-17-H-002-3	5-22K-H-010-3
CRX-50型	5-17-H-002-4	5-22K-H-010-4
CRX-60型	5-17K-H-005	5-22K-H-005
CRX-70型	5-17K-H-005-1	5-22K-H-005-1
CRX-80型	5-17K-H-005-2	5-22K-H-005-2
CRX-90型	5-17K-H-005-3	5-22K-H-005-3
CRX-100型	5-17K-H-005-4	5-22K-H-005-4
CRX-105型	5-17K-H-005-5	5-22K-H-005-5
CRX-120型	5-17K-H-005-6	5-22K-H-005-6
CRX-135型	5-17K-H-005-7	5-22K-H-005-7
CRX-150型	5-17K-H-005-8	5-22K-H-005-8

■ CRX-G型

名称	型式認定番号	
	更新前	更新後
CRX-5G型	5-17K-H-004	5-22K-H-004
CRX-7G型	5-17K-H-004-1	5-22K-H-004-1
CRX-10G型	5-17K-H-004-2	5-22K-H-004-2
CRX-14G型	5-17K-H-004-3	5-22K-H-004-3
CRX-18G型	5-17K-H-004-4	5-22K-H-004-4
CRX-21G型	5-17K-H-004-5	5-22K-H-004-5
CRX-25G型	5-17K-H-004-6	5-22K-H-004-6
CRX-30G型	5-17K-H-004-7	5-22K-H-004-7
CRX-35G型	5-17K-H-006	5-22K-H-006
CRX-40G型	5-17K-H-006-1	5-22K-H-006-1
CRX-45G型	5-17K-H-006-2	5-22K-H-006-2
CRX-50G型	5-17K-H-006-3	5-22K-H-006-3
CRX-60G型	5-17K-H-007	5-22K-H-007
CRX-70G型	5-17K-H-007-1	5-22K-H-007-1
CRX-80G型	5-17K-H-007-2	5-22K-H-007-2
CRX-90G型	5-17K-H-007-3	5-22K-H-007-3

■ PCN型

名称	型式認定番号	
	更新前	更新後
PCN-51A~2000A型	5-17K-H-009	5-22K-H-008
PCN-51B~2000B型	5-17K-H-009-1	5-22K-H-008-1
PCN-51C~2000C型	5-17K-H-009-2	5-22K-H-008-2
PCN-51D~2000D型	5-17K-H-009-3	5-22K-H-008-3
PCN-51E~2000E型	5-17K-H-009-4	5-22K-H-008-4
PCN-51F~2000F型	5-17K-H-009-5	5-22K-H-008-5
PCN-51W~2000W型	5-17K-H-010	5-22K-H-009

CRX30~50型の更新書類のダウンロードはこちらどうぞ



働きがい向上紹介08 社員がいきいきと働くことができる会社を目指す「働きがい向上委員会」

フジクリーンでは、全社員を対象に、年に一度働きがい調査を実施しています。「働きがい向上委員会」は、働きがい調査の結果を受けて「より働きがいのある会社にするための取り組み」を具体化し、実行するために設立されました。働きがい向上に取り組みたいメンバーを全社員から広く募集し、さまざまな視点から意見交換や議論を進め、社員の目線で考える新たな施策をまとめていきます。フジクリーンは今後も「働きがい向上委員会」を軸に、社員が心身ともにいきいきと働くことができる会社を目指します。



もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

(岐阜県可児市)
里山クラブ可児



代表 堤 喜治さん(左)
事務局 柿元 章吾さん(右)

里山の保全・整備活動を通じ、 森と人、人と人のつながりをつくる。



多くの親子が参加する棚田の田植え



世代を超えて
芝刈り機の
使い方を伝授▶

森から湧き出る水を体験

広々とした芝生広場、生物が息づく棚田、丁寧に整備された森。岐阜県の南西部、可児市久々利にある「我田の森」は、里山クラブ可児が20余年にわたり保全・整備に取り組んでいる約13ヘクタールの里山です。昭和初期までは里山として活用され、燃料となる薪の調達や棚田でお米作りが行われていた「我田の森」。しかし、生活様式の変化により放置され、やがて人が立ち入れないほどに荒れ果ててしまいました。そんな里山を再生しようと環境保全団体「里山クラブ可児」が、2002(平成14)年から、我田の森で里山保全・整備活動を始めました。荒廃した里山を少しずつ整備し、棚田を再生し米作りを再開。活動拠点の「夢工房」を会員達の手で建設するなど、地道な活動を続けてきました。こうした活動が認められ、2013(平成25)年には岐阜県の「環境保全モデル林」として指定されました。

2015(平成27)年には、不耕起、無農薬、有機肥料で米作りを行う「田んぼピオトープ」を自らの手で

竣工し、以来毎年米作りを行っています。「田んぼピオトープ」では、森からの湧水を引き込んだ水が年中張られ、生物たちの生息場所として維持・保全されており生物多様性が保たれています。他にも、オーガニック農園「里山ファーム」では、無農薬で育てられた季節の野菜が収穫されています。また、里山の豊かな環境を活用した自然体験学習として、市内の親子を対象に、田植え・稲刈り・餅つきを体験する「自然学校」や、里山の魅力を伝える「森の学校」等を実施しています。同時に、森のようちえんの活動場所として、大学の授業の場として、企業の社会貢献の場として「我田の森」は活用されています。

こうした「里山クラブ可児」の活動の継続性、他組織との連携によるパートナーシップが評価され、公益社団法人日本自然保護協会が主宰する「日本自然保護大賞2022」の大賞を受賞しました。現在、若手や女性会員も増え、会員一人ひとりが里山の自然を満喫しながら里山の魅力を次世代へとつなげています。

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市中種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	宇都宮営業所 (028)625-4650	三重営業所 (059)213-5520	宮崎営業所 (0985)32-3064
東北支店 (022)212-3339	群馬営業所 (027)327-5611	和歌山営業所 (073)422-3634	鹿児島営業所 (099)257-3501
東京支店 (03)3288-4511	埼玉営業所 (048)660-5050	広島営業所 (082)843-3315	沖縄営業所 (098)862-9533
名古屋支店 (052)249-5100	千葉営業所 (043)206-5171	高松営業所 (087)869-8680	
大阪支店 (06)6396-6166	新潟営業所 (025)271-8668	松山営業所 (089)967-6123	
福岡支店 (092)441-0222	山梨営業所 (055)275-9300	高知営業所 (088)803-1520	
盛岡営業所 (019)604-2527	松本営業所 (0263)27-2080	佐賀営業所 (0952)31-9151	
郡山営業所 (024)937-0800	岐阜営業所 (058)271-1131	熊本営業所 (096)388-3571	
茨城営業所 (029)839-2271	静岡営業所 (054)286-4145	大分営業所 (097)558-5135	



発行 2023年1月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室